

<h1>HOMAS</h1> <div style="text-align: right;">日本語版</div> <p>ニューズレター</p>	<p>No. 51 平成19年(2007年)7月26日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫</p>
<p><i>Hokkaido Massachusetts Society</i></p> <p>北海道・マサチューセッツ協会</p>	<p>発行所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 TEL011-231-3392 FAX 011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail: homas @ siren. ocn. ne. jp</p>

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち ⑦

## 地質測量・鉱床調査のベンジャミン・S・ライマン —北海道鉱山開発の基礎を築き、多くの優れた日本人鉱山技師を育てる—

明治政府が進めた北海道近代化の開拓の歴史は、きわめて急テンポの展開であり、それはまた、北海道と米国マサチューセッツ州との国際交流の出発点でもありました。明治2年(1869年)7月、開拓使を設置して、諸外国の先進技術・文化導入の方針を定め、78人の外国人技師・専門家を招きました。そのうちアメリカが最も多く48人でした。

明治3年(1870年)5月開拓次官となった黒田清隆の努力により、まず、明治4年(1871年)7月、開拓使顧問として米国農務省長官ホーレス・ケブロン<マサチューセッツ州出身>(1804~1885)一行を迎えます。

[黒田清隆は、明治7年(1874年)8月、第3代開拓使長官になり、開拓使廃止直前の明治15年(1882年)1月まで、本道行政の直接の責任者として活躍し、北海道開拓の基礎を築いた最大の功労者といえます。]

続いて明治6年(1873年)1月、地質測量のベンジャミン・S・ライマン<マサチューセッツ州出身>(1835~1920)一行、そして7月には、農業牧畜のエドウィン・ダン<オハイオ州出身>(1858~1931)、さらに明治9年(1876年)7月 即戦力の人材育成を目指す高等教育のウィリアム・S・クラーク<マサチューセッツ州出身>一行などを迎えて、その優れた指導力のもとに、いろいろな開拓事業を進め、また「札幌農学校」を開校したのでした。これら米国マサチューセッツ州出身者は、総じて勤勉で献身的に職務以外の仕事にも非常に熱心に取り組み、ほんとうに北海道開拓期の立派な指導者でした。

今回は、明治6年(1873)1月に来日し、3年間にわたり北海道全域の地質測量・鉱床調査を行い、本道鉱山開発の基礎を築いたベンジャミン・S・ライマン(1835~1920)の業績について取りあげてみたいと思います。

ベンジャミン・S・ライマンは、1835年<天保6>12月11日、マサチューセッツ州ノーサンプトンの名門の家にサムエル・ライマンを父として生まれています。祖父はイェール大卒で裁判所判事、父はハーバード大卒で判事、母はスミ

**ライマン・コレクション** ライマンの死後、彼の残したコレクションは、米国哲学協会、ペンシルベニア歴史協会、郷里ノーサンプトン市のフォーブス図書館に分割して寄贈されました。フォーブス図書館には1921年春に約5千点の資料がフィラデルフィアから到着しました。

ライマンは大変な親日家で、几帳面な性格だったので、このコレクションには約2千点の日本関係資料が含まれていました。日本関係資料をおおまかに分類すると、日本文化に関心を持ち収集した江戸時代から明治初期にかけての広い分野にわたる文献、書簡類(彼自身の書簡の控綴を含む)、調査や日常生活に関する会計簿類、彼の著書、膨大なフィールドノート、地質測量図、彼の日本語の修得に関する資料、写真などとなります。<その整理には、当時マサチューセッツ農科大学(現マ州立大学)板野新夫助教授とアマースト大学学生中川久順が協力しています>

1985年、フォーブス図書館がこのコレクションを手放すことになり、その保存運動の結果、1987年と1990年にマサチューセッツ州立大学が購入し、現在は同大学図書館が所蔵しています。1986年マ州立大学図書館福見恭子さんの呼びかけにより、北海道でも「ライマン・コレクション保存協力委員会」を設立し、募金運動を展開して多額の支援協力をしています。

スカレッジ創業者ソフィア・スミスの従妹で、知性を誇る由緒ある英国型の家筋でした。ライマンはまじめで向学心の強い青年でハーバード大学(法律)を卒業。法律事務の仕事には就かず、著名な地質学者であったペンシルベニア州フィラデルフィアの伯父J・P・レズレー博士の地質測量を手伝っています。当時、ペンシルベニア州には古生代の炭田層の分布が知られ、貴重なエネルギー資源として地質調査が行われていました。その後、コンコードの中学校で教鞭を取り、当時この地に集まっていたオルコット、エマーソン、ソーロー、ホーソンなど著名な作家・思想家などの影響も受けたといわれますが、数月にして教育者の生活を辞しています。1859～1862、フランス・パリのエコール・ド・ミン及びドイツフライブルグのベルグアカデミー鉱山学校で、地質・鉱物学を学びます。帰国後は、アメリカ各地の地質鉱床調査に従事しています。1870年<明治3>イギリス政府の委嘱で1年にわたり炎熱のインドパシヤ地方の油田調査を行い、帰途、中国、日本に立ち寄り翌年帰国しています。

ライマンは、明治5年(1872年)5月、開拓使の招聘を受け、日本行きを決心しています。ライマン(37歳)は<年俸7,000ドル>の契約で、助手H・S・マンロー(後にコロンビア大学学部長)とともに来日、明治6年(1873年)1月18日東京に到着しています。翌日、開拓使官舎に移り、早速英和辞書や会話本を注文して、地質調査準備のかたわら日本語学習に励んだといわれます。来日後、ただちに北海道地質測量のことを囑され、まず日本人助手を要求します。そこで開拓使は「開拓使仮学校」、<(明治5年3月、東京芝増上寺境内に設置→明治8年9月札幌に移して「札幌学校」(札幌農学校の前身)→明治9年8月14日「札幌農学校」として開校>から13名の有為の青年を選抜しています。ライマンとマンローは、短期間ではありますが、これらの青年たちに、数学・物理・化学をはじめ測量・地質・鉱物学の専門的知識を教授しています。日本には正式の地質学の教育がなかった時代で、ライマンの地質調査の方法は日本の地質学の先駆となったといわれます。そしてライマンは、明治6年(1873年)4月から3年間、地質学鉱山学教師・地質測量鉱山技師長として、助手マンローと同行の13人の日本人の青年たちとともに道内各地の地質鉱床調査の測量を開始します。

初年度は、明治6年(1873年)4月下旬、まず、北海道南部の沿岸・積丹半島・幌内炭田の調査にあたり、この後、開拓使顧問ホーレス・ケプロンに同行して石狩等を調査しています。また埋蔵量の豊富な石狩炭田を察知し、特に幌内付近が適切であることを指示しています。ライマンは苦難の多い奥地踏査中にも、雨天の日などは、テント内で終日、日本語の勉強をしたそうです。またアイヌ語も日常会話を理解する程度まで修得したといわれます。この年は、降雪のため11月中旬に調査を打ち切り帰京します。そして、「北海道地質測量報文」を提出しています。

第2年度は、明治7年(1874年)5月から、石狩炭田の詳細な測量、次いで石狩川水源・十勝川流域等を調査。さらに、釧路根室各地の鉱床をたどって、北見・宗谷・留萌・小樽を経由する北海道沿岸調査をして10月下旬に函館に到着・帰京しています。この第2年度の北海道一周地質調査では、ライマンは、すべてを日本語でやり通したといわれます。ライマンは、松浦武四郎の「東西蝦夷山川地理取調図」を携帯したといわれますが、このほとんど人跡未踏の原野に行く、熾烈をきわめた調査旅行にもかかわらず、チームワークも円滑且つ和気あいあいのうちに見事な成果を収めています。そして北海道地質検査巡回記事・調査報文・地図などを提出しています。

ライマンが、東京の平河町に購入した家には、石灯笼のある広い庭園・花壇・池などがある和風の邸宅でした。明治7年暮れには、使用人の家族も移り住んで、家中にぎやかになり、彼は家庭的な雰囲気を喜んだといえます。使用人の子供を学校にやり、病気をすれば、入院費を出し、家庭問題が起きれば、よき相談相手となって世話をしたので、皆に、一家の長として、尊敬され、慕われたといわれます。また室内には書画を掲げ、日本の伝統芸能である義太夫・文楽・落語などにも不快感を寄せ、日本庭園作りにも力を入れるなど東京山の手生活と習慣を楽しんだようです。

第3年度は、明治8年(1875年)6月中旬から調査を開始して、札幌・石狩・幌内地方の幌内石狩川間と幌内空知川間の連絡通路の測量に当たり、道内の3年間の調査を終えて、東京へ戻ります。そして、200万分の1の北海道地質図である「日本蝦夷地質要略之図」を完成し、さらにこの地質図の説明書ともいべき「北海道地質総論」をまとめ、「北海道地質測量報文」などを提出しています。後にこれらの業績は、幌内炭鉱<明治13年(1880年)開坑>をはじめとする北海道の鉱山開発の基礎となっています。また、その運搬計画のために測量された鉄道路線は、後に明治15年(1882)

幌内鉄道の開通となって実現しています。さらに、ライマンは、開拓事業に対して、社会制度・教育制度・移民制度に関しても、時の黒田清隆長官に進歩的な建言をしたといわれます。

この当時の北海道の踏査は、道もないところを切り開きながら毒虫に悩まされ、熊の恐怖におびえながら野営を重ねていくものでした。ライマンの調査隊は、開拓使の事務官、荷物運搬のための人夫等もふくめて、総勢 40~50 人からなり、全体が一団として進行するのではなく、その職分に従って行動したようです。ライマンは馬上から、地質の露頭を観察しスケッチをしながら移動したようです。同行した当時の日本青年たちが書き残したのものによると「密林の身の丈にも余るほどに生い茂った熊笹を刈り取るのが第一の仕事」と語っています。このきびしい調査旅行の間、ずっと起居を共にして、地質学とその実地の応用技術を教えたライマン、マンローの偉大さ、そしてその新しい技術を体得しようとして辛抱強く従った若き技術者たちにはほんとうに敬服の限りです。ライマンの地質調査の目的は、有用鉱産物の発見とその開発でしたが、最も力を注いだのは石炭の調査で、後の茅沼炭鉱・幌内炭鉱・美唄炭鉱などの基礎資料が報告書にまとめられています。

その後、開拓使のすすめにより、明治9年(1876年)2月<年俸10,000ドル>で2年間内務省、ついで明治11年(1878年)2月<年俸14,000ドル>で工部省の囑託となり明治12年(1879年)7月まで、東北・北陸・中国・四国・九州の地質調査にあたり、特に新潟油田の開発に大きな影響を与えたといわれます。ライマンの指導を受けた日本人の青年たちは、後に、優れた鉱山技師となり北海道のみならず日本の鉱業開発に貢献しています。

ライマンは、契約終了後も自費で日本に滞在し、各地の鉱山、炭鉱、温泉などの報告書をまとめ、全国的な地質調査事業を続けようとしていましたが、明治政府が、明治12年(1879年)、当時東京大学理学部採鉱冶金学科で教えていたドイツの地質学者エドムント・ナウマンに、その後の日本各地の地質調査の仕事を任せの方針をうちだしたため、ライマンは、いわば事業半ばにして、明治13年(1880年)12月22日、日本を立ち、ヨーロッパ経由で明治14年(1881年)5月帰国したのです。8年ぶりにノーサンプトンに戻りました。

その後1887年、ペンシルバニア州フィラデルフィア市を永住の地とします。再び各地鉱山の調査にあたり、1887~1895年ペンシルバニア州立地質局副長、鉱山会社顧問技師として活躍します。このころ、日本に関する多くの論文を学術雑誌に発表しています。1895年<明治28>、フィラデルフィア市に事務所を設置。主として石炭鉱山の顧問技師として活躍します。明治36年(1903年)、日本鉱業会は、ライマンを名誉会員に推戴しています。明治40年(1907年)、フィリッピン島のラントア炭田の調査に赴き、途中日本に立ち寄って、わずか2日間の滞在ながらも門下生たちの歓迎をうけています。また、ライマンの晩年は、経済的には楽ではなかったようですが、日本の弟子たちとの交流も大事にし、また日本から留学した日本青年達の面倒もよく見てお世話されたということです。

ライマンは、恵まれた環境で育ち、真面目な努力家でもあったので、その学識・趣味はきわめて広く、専門の地質学・鉱山学・地理学のほかに、文学・哲学・美術・民俗などの知識が深く、語学も非常に堪能であったといわれています。ライマンは、日本語の修得のみならず、日本文化・古典文学にも深い関心を寄せ、非常に広い分野にわたる日本の資料・文献を収集し、自ら日本文化を研究し、著作活動しています。また、日本をこよなく愛し、帰国後も日本での生活を懐かしみ、日本の祝日には「日の丸」を掲げ、室内には日本の書画を飾り、お茶をたしなみ、在留日本人を自宅にまねいたりして交友関係を保ち続けていたといわれます。

1920年<大正9>8月30日、フィラデルフィアで84歳で死去。ライマンは終生独身で、肉食主義の実行者であり、日本をこよなく愛した外国人の1人でした。

<参考文献及び参考資料>

- ・「北海道を開拓したアメリカ人」(藤田 文子著) 新潮選書 ・「お雇い外国人―開拓」(原田一典著) 鹿島出版会
- ・「北海道開拓功労者関係資料収録」(下巻) ・「近代日本鉱業の黎明期と来曼先生」(ライマン先生顕彰録)
- ・「ライマン・コレクション展関係資料」(第41回北海道開拓記念館特別展 1995) ・その他インターネット資料など
- ・ライマン・コレクション保存協力委員会常任委員 関 秀志氏より、多数の貴重な資料提供をいただきました。

<おことわり> 紙面の都合で、ライマンと開拓使との確執、ライマンの失恋問題等は割愛しました。



## 北海道・マサチューセッツ協会 平成19年度理事会・総会

— 期日:平成19年5月8日 場所:北方圏センター会議室 —

### 平成18年度 北海道・マサチューセッツ協会事業実績

#### 1. 会 議

(1) 平成18年度理事会及び総会

5月9日(火) 於 北方圏センター会議室

#### 2. 広報活動

会 報 「THOMAS」ニュースレターの発行 第48・49・50号

#### 3. 行 事・関連行事

(1) 総会ミニコンサート 5月9日(火) (クラリネット奏者・渡部 大三郎氏他)

(2) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ

第1回 6月10日(土) 三角山・大倉山コース (参加者14名)

第2回 7月15日(土) 円山公園・北海道神宮境内・円山登山コース (参加者10名)

(特別) 7月27日(木) 「バスケットボール殿堂館日本移動展 in 滝川」見学ツアー

(参加者14名)

第3回 8月12日(木) 時計台・大通公園散策・札幌市資料館コース (参加者12名)

第4回 9月 9日(木) 赤れんが・北3条通り・永山邸・開拓使麦酒醸造所コース

(参加者19名)

第5回 10月7日(土) 藻岩登山・お月見夕食会コース

(参加者20名)

(3) 国際交流ランチセミナー

第1回 6月24日(土) 小樽歴史観光と交流昼食会(ヒルトン小樽) (参加者49名)

第2回 10月28日(土) レストラン「ミモザ」<ハロウィーン> (参加者46名)

第3回 2月17日(土) -KKR札幌レストラン「マイヨール」- (参加者35名)

(4) 「ホーレス・ケブロン通り」道民フォーラム開催

9月 2日(土) 道庁赤れんが庁舎会議室 (参加者60名)

#### 4. 交流事業

○マサチューセッツ州関係訪問団の受け入れ

(1) 第3回ノーブルズ高校短期交換留学プログラム(10名) 6月17日(土)～7月 3日(月)

(2) コンコードグループ 11名来道 7月 7日(金)～7月12日(水)

(3) クラーク博士曾孫スチュ・クラーク氏一行来道 9月28日(木)～9月30日(土)

○舞踏グループ「偶成天」のマサチューセッツ州公演 11月3日(金)～11月12日(日)

舞踏デュオ森田一踏・竹内実香氏は、10年間の国内海外公演の実績により、ダンスセラピーの分野で高い評価を受けている。今回は、ポストンとアムハーストで舞踏公演と公演・ワークショップを実施。

#### 5. 資 料 本道とマ州の関係資料・情報の収集

## 平成18年度 一般会計 収支決算

### I 収入

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
会 費	3,200,000	3,234,000	34,000	
個人会費	600,000	659,000	59,000	
法人会費	2,600,000	2,575,000	△25,000	
助成金	20,000	0	△20,000	
広告収入	30,000	30,000	0	
雑収入	30,000	46,304	16,304	利息・歴史発見の旅他
前期繰越金	190,954	190,954	0	
合 計	3,470,954	3,501,258	31,304	

### II 支出

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
事業費	185,000	138,865	46,135	
会報発行費	80,000	77,602	2,398	会報3回(印刷・送料)
セミナー開催費	60,000	47,000	13,000	ランチセミナー3回
情報収集費	5,000	4,390	610	参考文献
訪問団受入費	40,000	9,873	30,127	小グループ受け入れ
会 議 費	5,000	1,100	3,900	理事会・総会
運 営 費	3,260,000	3,081,978	178,022	
事 務 費	600,000	581,386	18,614	事務用品費・通信費
人 件 費	2,660,000	2,500,592	159,408	職員費・通勤手当・社会保険料等
予 備 費	20,954	20,000	954	
合 計	3,470,954	3,241,943	229,011	

### III 差引残高

3,501,258      -      3,241,943      =      259,315 (次年度繰越金)

## 平成19年度 北海道・マサチューセッツ協会事業計画 (案)

1. 会 員 会員が減少の傾向にあるので、会員の増員と会の活性化に務める。(事務局の努力だけでは限界があり、役員・一般会員にも積極的なご協力をお願いしたい)
2. 会 議 2007年5月8日(火) 理事会・総会
3. 広報活動 「HOMAS」ニューズレター 第51・52・53号の発行
4. 行 事・関連行事
  - (1)総会・ミニコンサート 2007年5月8日(火) (北海道インターナショナルスクール合唱団生徒のコーラス予定)
  - (2)北海道を知る歴史発見の旅シリーズ (ディスカバーウォーキング・ハイキング & お食事会)
    - 5月12日(土) —真駒内コース (南区開拓の歴史再発見) —  
桜山 (真駒内保健休養林)・モーテン・ラーセン農場跡 (五輪記念公演)・真駒内用水路 (真駒内緑町緑道)・エドウィン・ダン記念公園銅像及び記念館
    - 6月16日(土) —五天山コース (古くは開拓期の採石・今は静かな信仰の山です) —  
平和登山口～五天山神社～頂上 (303メートル)～採石場跡側～福井下山
    - 7月31日(火) —植物園・清華亭・北大コース—  
植物園 (博物館・北方民族資料室・ライラック通り)・清華亭 (偕楽園跡)・北大 (クラーク胸像・総合博物館・ポプラ並木・新渡戸稲造銅像・モデルバーン)
    - 9月27日(木) —藻岩山33ヶ所霊場登山と十五夜お月見夕食会・ミニコンサート (馬頭琴) —
    - 10月13日(土) —北3条通り「ケブロン通り」を歩くコース—  
開拓使本庁舎跡・赤れんが庁舎・北3条通り歴史散策・旧開拓使麦酒醸造所・永山邸・札幌ビール博物館・昼食会・JR苗穂工場・鉄道技術館
  - (3)国際交流ランチセミナー
    - 7月14日(土) 第1回 国際交流ランチセミナー<小樽バスツアー&ヒルトン昼食会>
    - 11月23日(金) 第2回 国際交流ランチセミナー<アメリカの歴史を学ぶ・サンクスギビングパーティー>
    - 2008年2月16日(土) 第3回 国際交流ランチセミナー
5. 交流事業 国際交流事業
  - 2007年4月10日(火)～14日(土) コンコードカーライル高校訪問団 (約107名) 来札  
札幌白石高校吹奏楽部とのジョイントコンサート (12日(木)・Kitara)
  - 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ — アメリカ編
    - 10月16日(火)～21日(日) <6日間>旅行費用280,000円程度 (募集人員15名以上)  
<マクドナルドの故郷と札幌姉妹都市ポートランドを訪ねる>  
シアトル (ポーイング社工場・マイクロソフト社他)、アストリア・バンクーバー (マクドナルド・三吉記念碑)、ポートランド (市長表敬訪問他)、ラスベガス (華やかなショーなど)
6. 資 料 本道とマ州の関係資料・情報等の収集

## 平成19年度 一般会計 収支予算 (案)

### I 収入

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
会 費	3,100,000	3,200,000	△100,000	
個人会費	600,000	600,000	0	200 口
法人会費	2,500,000	2,600,000	△100,000	135 口
助成金	0	20,000	△20,000	札幌国際プラザ
広告収入	30,000	30,000	0	
雑収入	30,000	30,000	0	預金利息他
前期繰越金	259,315	190,954	68,361	
合 計	3,419,315	3,470,954	△51,639	

### II 支出

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
事業費	285,000	185,000	100,000	
会報発行費	80,000	80,000	0	会報3回(印刷・送料)
セミナー開催費	50,000	60,000	△10,000	ランチセミナー3回
情報収集費	5,000	5,000	0	参考文献
特別会計繰出金	120,000	0	120,000	歴史発見の旅(米西海岸)
訪問団受入費	30,000	40,000	△10,000	小グループ受け入れ
会 議 費	3,000	5,000	△2,000	理事会・総会
運営費	3,100,000	3,260,000	△160,000	
事 務 費	550,000	600,000	△50,000	事務用品費・通信費
人 件 費	2,550,000	2,660,000	△110,000	職員費・通勤手当・社会保険料等
予 備 費	31,315	20,954	10,361	
合 計	3,419,315	3,470,954	△51,639	

# 平成19年度 第1回 国際交流セミナー in 小樽 記録(抄)

## 「新しい国際交流を求めて」～異文化理解のふれあい～

日時 平成19年7月14日(土) 小樽1日コース  
昼食会 ヒルトン小樽 特設レストラン

<ゲスト>	ヌグロホ アリーフ セチアワン ブディ (インドネシア)	JICA海外技術研修員 (M)
	レンディオ マリセル レナシア (フィリピン)	JICA海外技術研修員 (F)
	鈴木 伊保子 パウラ (ブラジル)	北海道海外技術研修員 (F)
	佐々木 マヤ エロイーザ (ブラジル)	北海道海外技術研修員 (F)
	水本 あきえ (パラグアイ)	北海道海外技術研修員 (F)
	蒲田 エミリア 陽子 (アルゼンチン)	北海道海外技術研修員 (F)
	ファティマ ララ = マルティネス (スペイン)	小樽商科大学留学生 (F)
	ウェンセスラオ マンザノ (メキシコ)	小樽商科大学留学生 (M)
	マティアス エクロフシュテイン (ドイツ)	小樽商科大学留学生 (M)

概要: この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基本理念を置き、2001年(平成13年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の問題を論じ、会員同志の意見交換・交流の場にもなることを目指しています。すでに18回開催しています。

今回は、札幌国際センターのJICA海外研修員・海外技術研修員6名、小樽商科大学留学生3名で、合計9名のゲストをお招きして、国際色豊かな小樽バスツアーとして楽しい1日を過ごしました。

ここには紙面の都合で、国際交流昼食会の時のゲストのショートスピーチのみをご紹介します。今回の参加者は合計30名でした。(通訳は、当協会会員・岩崎 修子さん)



小樽市総合博物館正面 北海道の鉄道の父 ジョセフ・U・クロフォード(1842-1924)の銅像の前で



## 1 アリーフ (インドネシア)

ありがとうございます。それでは自己紹介させていただきます。私はアリーフ・セチアワン・ブディ・ヌグロホと申します。インドネシアから来まして、こちらには3年間滞在する予定です。北海道大学大学院・工学研究科の博士課程で学んでいます。

最初に北海道マサチューセッツ協会、そして特に事務局長の中垣さんのお招きで、ここで皆さんと過ごせることに、お礼を申し上げたいと思います。今日はとても楽しんでおります。こちらに来てずっと大学で勉強し論文ばかり書いていましたので、外の世界のことはほとんど分かりませんでした。でも今日は日本の文化のこと、札幌のこと、とりわけ小樽のことについて学ぶことができましたし、また今日、ご参加の人たちとの交流もできました。

私の国、インドネシアは開発途上国であり、日本といろいろな面で違ってきます。特に、働き方が違います。日本人はとてもよく働き、朝早くから、そして時々、いえ時々ではなくてほとんどいつもですね、夜遅くまで働いたりします。ここがインドネシアと大きく違うところです。インドネシア人の一般的な考え方は、人生はお金のためにあるのではなく、お金が人生のためにあるという考え方です。お金はたくさんかせがなくてはなりませんけれども、それはあくまで人生のためにあると考えます日本人は少し違うように感じます。日本と文化の違いはとても大きいのですが、今後、インドネシアの人も日本のいいところを学んでいければと思います。

それから、インドネシア（人口2億4千万人、公用語インドネシア語）についてお話したいと思います。インドネシアは、日本と同じく島国国家ですが、インドネシアの場合は1万3千もの島々から成り立っています。日本では皆同じく日本語を話しますが、インドネシアではそれぞれの島により言葉が違い、200種類もの言語があります。私の話す言葉は他の島では通じないのです。またそれぞれの島により、違う文化があり、民族衣装、歌、ダンスなども違ってきます。

それから最後にお知らせしたいことがあるのですが、9月9日にエルプラザで、札幌インドネシア協会の主催で、北大で学ぶ30人のインドネシア人留学生が中心となり、インドネシア・カルチャーナイトのイベントを行います。日本人といっしょにインドネシアの伝統の踊り、バリ・ダンスや音楽、歌を披露しますので、ぜひいらして下さい。今日はお招きありがとうございました。

## 2 あきえ (パラグアイ)

皆様、こんにちは。それでは自己紹介いたします。私は水元あきえと申します。23歳で、パラグアイ（人口約619万人、公用語スペイン語・グアラニー語）から来ました。パラグアイは、ブラジル・アルゼンチン・ボリビアの間にあります。パラグアイでは物価が日本と比べてとても安いので、快適に暮らせます。けれども、パラグアイは日本より危険なところがあります。バスの中では、危険なので、居眠りはできません。日本では、地下鉄で居眠りをしている人をよく見かけます。最初、こちらに来たときは、なぜ地下鉄の中でこんなに大勢の人が眠っているのだろう、とショックを受けました。けれども、今では私も日本人と同じように地下鉄の中で居眠りをしています。パラグアイでは、なるべくバスに乗らないようにしていますが、乗るときはバッグを自分の目の前におくようにしています。盗む人がいるからです。バスの中では、イヤリングもつけないようにしています。奪われることがあるからです。

私は日本に来る前は、アルゼンチンで製菓学校に通っていました。今は札幌の宮島学園（北海道調理師専門学校・北区北26条東3丁目）でお菓子作りについて学んでいます。私には夢があります。それは、帰国した時に、自分の店を持つことです。来年の3月に帰国予定ですが、それまで友達をたくさん作り、いっぱい遊び、楽しい時間をすごしてゆきたいと思っています。

(日本語で) パラグアイでは、みんなマテ茶というお茶を仕事中でも飲んだりして、楽しく仕事をしたりする、そういう習慣があります。日本と違うところはたくさんありますが、日本ではみんな忙しそうに時間に追われて過ごしていると思います。パラグアイはのんびりしていて、日本と足して割ったくらいがちょうどいいと思います。

### 3 イホコ (ブラジル)

皆様、こんにちは。鈴木パウラと申します。25歳で、ブラジルから来ました。私はサンパウロ市のマッケンジー大学で建築について学び、2005年に卒業しました。50年ほど前、日本に住んでいた私の父が、家族と共にブラジルに移住しました。それで子供の頃から日本に来るのが私の夢でしたので、今年この交換プログラムで日本に来ることができて嬉しく思っています。来年の3月まで、日本には9か月いる予定です。現在建築事務所で訓練を積んでおりまして、ここでの経験が私のキャリアにとってとても重要なものになると思っています。日本に来たのは先月なのですが、この短い期間にもいろいろな場所にいき、いろいろな行事に参加しました。例えば、ヨサコイソーラン祭り、札幌祭り、円山公園、すすきの、小樽などです。ここ日本で、日本建築について学び、そして2つの国の建築の違いを比較したいと思っております。ブラジルに帰った時にこちらでの素晴らしい経験をみんなに伝えようと思っています。また、日本語についてももう少し上達したいと思っています。

それでは少しブラジル（人口約1億8千万人、公用語ポルトガル語）についてお話します。ブラジルは南米にある、熱帯の国です。首都はブラジリアですが、一番大きい都市はサンパウロです。サンパウロはまた南米最大の都市でもあります。リオデジャネイロも有名ですが、特にキリスト像や、シュガーローフ山で有名です。シュガーローフというのは砂糖パンという意味です。（注・山の形が砂糖パンに似ているのでそう呼ばれるようになった）おそらく皆さんがブラジルのことを聞いたとき思い浮かべるのは、サンバとサッカーだと思います。それから美しい海岸、アマゾンの森林のことでしょう。食事もたいへんおいしく、肉料理のシュラスコやフェジョアードがあります。シュラスコというのは一種のバーベキューで、フェジョアードは豆料理です。もしブラジルに行かれることがありましたら、この2つをぜひ味わってみてください。決して後悔することはないと思います。今日はありがとうございました。

### 4 マリセル (フィリピン)

まず最初に本日のご招待についてお礼を申し上げます。私はマリセルと申します。フィリピン（人口約8,780万人、公用語フィリピン語、英語）から参りました。JICAの研修員で、6か月間、火山学・総合土砂災害対策コースで研修しております。フィリピンでも火山学・地震学の研究所で働いていました。JICAのコースでは6人で学んでいるのですが、国際色豊かな顔ぶれで、インドネシア、カメルーン、コロンビア、フィリピンなどから来ています。私たちのコースは9月8日までなのですが、3月14日に東京から始まり、そこで2か月研修したあと、研修員は日本のあちこちへ、九州や東京、京都、その他の地域へ振り分けられていきました。私は北大に来ることになり、そこで調査研究をしています。訓練期間の終了までに火山学や地震学についていろいろ学んでいきたいと思っています。

フィリピンと日本の文化の違いはあまり大きくありませんが、もしかしたらフィリピンの女性のほうがパワフルかもしれません。というのも、私たちの大統領も、女性ですので。アロヨ大統領です。最後にもう一度、今日お招きいただきましたことにお礼を申し上げます。

### 5 マティアス (ドイツ)

皆さん、こんにちは。マティアス・エクロフシュタインと申します。まず最初に、今日招いていただきましたことにお礼を申し上げます。私は小樽商大のドイツ（人口約8,240万人、公用語ドイツ語）からの留学生で、こちらに来て10ヶ月になります。今まで博物館にも他の場所にも行ったことがありませんでした。今回、このような機会を与えてくれましたことにも感謝しております。ドイツの大学との交換プログラムで、こちらで1年間勉強することになっています。こちらでは哲学と経済を専攻していますが、今まで日本語や経済について学ぶ機会はありませんでしたので、とても興味深く学んでいます。10代のころから、日本について、特に日本の映画などについてとても興味があったので、こちらに来られて嬉しく思っています。

日本に来て10ヶ月になりますが、日本の人たちはみな温かく親切なので、家を遠く離れていても全然寂しいと思ったりはありません。ドイツと日本の文化はもちろん違っているのですが、ある種似通ったところもあり、歴史的

に同じ部分があるので、似たようなメンタリティをもっているのかもしれませんが。いつも面白く思っているのは、「どこから来ましたか?」と聞かれて、「ドイツです。」と答えると、いつも反応が、「ああ、ドイツ、ビール!ソーセージ!サッカー!」と、同じなのです。まあ、確かにその通りで、ドイツ人はソーセージが大好き、ビールが大好き、サッカーが大好きなのですが、でもそれ以外にもドイツにはいろいろありますので、どうぞ皆さん、ドイツにいらしてご自分の目で確かめてみてください。私はビールが好きで、これはぜひ申し上げなくては行けません、日本のビールもとてもおいしいと思います。日本の食事もおいしくて、こちらに来て食事面で困ったことは全くありませんでした。もうすぐ、あと1か月あまりでドイツに帰らなくてはならないので、それが少し悲しいです。でも日本に來られて大変嬉しく思っています。今日はありがとうございました。

## **6 ファティマ (スペイン)**

皆様、こんにちは。ファティマと申します。スペイン(人口約4,300万人、公用語スペイン語)から参りました。小樽商大の留学生で、そこにいるマティアスと一緒に勉強しています。こちらには10ヶ月前に來まして、あと残り1か月半となりました。日本に來て、全く違った文化の中に身をおくというのは、私にとりましてとても素晴らしい経験となっております。私は旅行が好きで、以前英国にも2年ほど住んでいました。イギリスの文化は、スペインの文化とももちろん少し違ったところはありますが、それでもやはり似ていて、同じ西洋様式の文化です。私はあちこちへ行き、他の様々な文化にも触れてみたいと思いました。大学で交換プログラムの話があって、行き先は日本でした。それで、行ってみよう、と思ったのです。この国、そしてこの人々は、とても素晴らしいです。日本はとても居心地がいいので、自分の国にいるよりいいくらいです。先ほどの方もおっしゃっていましたが、バスも素晴らしいです。自分の手荷物のことを気にしないでいいなんて、すごいです。

私の国についてお話したいと思いますが、ご存知のように、スペインは南ヨーロッパにあります。アフリカへの玄関口とも言われています。観光客にもよく知られていますが、フラメンコも有名です。でもスペインはフラメンコだけではありません。内陸部に行くと、人々も歴史も料理も違います。スペインにいらしたときは、ぜひ内陸部も訪れていただきたいと思います。人々も文化も言語も違い、観光地としての典型的なスペインとはまた大きく違ったスペインが見られると思います。

最後に今日お呼びいただきましたことに感謝申し上げます。小樽に10ヶ月住んでおりますが、今日はあまり行ったことのない場所だったので、貴重な経験となるよい機会でした。ありがとうございました。

## **7 ウェンセスラオ (メキシコ)**

(日本語で)ウェンセスラオといいます。メキシコ(人口約1億4百万人、公用語スペイン語)から來ました。よろしくお願ひします。小樽商科大学の学部生の3年生です。文部科学省からの留学生なので、皆のおかげで來ているので、ありがとうございます。もう3年間小樽に住んでいるのだけれど、今日行ったところは今まで行ったことがなかったので、びっくりしました。小樽にこんなすごい伝統的な建物があって、中にはいると、外からみるのとは全然違う雰囲気になるのでびっくりしました。感謝しています。それと、北海道・マサチューセッツ協会にもお礼申し上げたいと思います。こんないいランチを食べさせてもらいました。ほんとうにありがとうございました。

## **8 陽子 (アルゼンチン)**

こんにちは。エミリア・陽子・蒲田と申します。アルゼンチン(人口約3,914万人、公用語スペイン語)から参りました。両親が日本人で、22歳になります。2005年に料理学のコースを終えまして、今年、日本に來る機会を得まして、訓練生のプログラムで日本料理について学んでいます。

私の国、アルゼンチンは南米にありまして、首都はブエノスアイレスです。人口は3600万人です。アルゼンチンは素晴らしい国で、天候・植物・風景もこことはずいぶん違いますが、なかでも一番美しいのは、北部にある「イ

グアスの滝」の雄大な自然です。おいしいバーベキューを食べながらマテ茶を飲む習慣があります。マテ茶は私の国ではとても人気があります。日本のお茶のように、毎日マテ茶をホットで飲みます。アルゼンチンはタンゴやサッカーで有名ですが、タンゴは男女で踊る官能的なダンスで、サッカーでは馬拉ドーナが、アルゼンチンだけではなく世界中で有名です。アルゼンチンは移民の国で、私の父もそのひとりでした。父は日本からアルゼンチンに14歳のときに来ました。おかげで、私は日本人の子孫として日本に来る機会を得ました。この交換プログラムを大変楽しんでます。日本に来るのは初めてでしたが、日本は素晴らしい国で、人々も礼儀正しいと思います。アルゼンチンに帰った時は、日本での経験をいろいろ教えてあげたいと思っています。ありがとうございました。

## 9 マヤ (ブラジル)

皆さん、こんにちは。佐々木マヤと申します。ブラジルから参りました。私は北海道大学でジャーナリズムについて学ぶため日本に来ました。去年の5月に札幌に着きまして、来年3月まで滞在予定です。日本に来るのはこれが3回目となりまして、2004年と2005年に長野県の電気関係の工場で働くため来日しました。その時は学生でしたが、私にとってこれは良い経験となりました。ここで得たお金で南米のペルーとボリビアを旅行しました。この時にまた、日本の親戚にあうこともでき、みんな歓迎してくれました。今回は前回とは違って、学生としてこちらに滞在しているわけですが、学生だと皆さんとてもよくしてくれています。勤労者としてこちらに滞在していたときは、まわりの接し方が違っていました。日本では大勢のブラジル人が工場などで働いています。こちらの勤務条件がブラジルよりも良いからです。けれどもブラジル人が多く働いている地域では、少数の人ではあるのですが、犯罪を起こすこともありまして、ブラジル人全体のイメージを悪くしています。でもみんながそうではありません。今回私はブラジル人のいい面を伝えていきたいと思っています。ブラジル人は頭が良く、働きもので、陽気な人たちです。ダンスが好きで、友達とおしゃべりをするのも好きです。私は大学でも、他の場所でも、一生懸命やっついこうと思っています。ブラジルに帰ったら、こちらでの経験をみんなに伝えるつもりです。私はブラジル人と日本人の間にある垣根をやぶりたいと願っています。今日このような機会を与えてくださりまして、ありがとうございました。

今回の「国際交流セミナーin 小樽」は、7ヶ国9名という多国籍のゲストをお迎えしての1日バスツアーとして実施いたしました。

[ コースの概要 ] まず小樽運河を散策した後、7月14日(土)リニューアルオープンした「小樽市総合博物館」(北海道の鉄道の原点)の見学。明治13年に手宮~札幌間の鉄道を開通させたジョセフ・U・クロフォード(1842-1924・米国ペンシルバニア州出身)の銅像をバックに写真撮影をしました。明治17年米国製の「しづか号」とのうれしいご対面もありました。

続いて、日露戦争後の、ポーツマス条約に基づく「日ロ国境画定会議」の生き証人ともいべき歴史的建造物「旧日本郵船小樽支店」を見学。明治39年9月に完成して、その11月に国際会議に使用された貴重な歴史的遺産です。さらに日本酒の老舗「田中酒造」(明治32年創業)の見学ではいろいろな日本酒を試飲させていただきました。「大吟醸」のすばらしさもわかりました。そしてお昼は、「ヒルトン小樽」での2時間におよぶ国際交流昼食会を多国籍のゲストと一緒に楽しみました。午後は、世界各国の古いコレクションを誇る「小樽オルゴール堂アンティークミュージアム」の見学。宙吹きの実施なども見学できるガラス工房「ザ・グラス・スタジオ・イン・オタル」の見学。最後の「おたるワインギャラリー」では工場見学の後、試飲サービスの各種ワインに酔いしれて、それぞれにおみやげのワインを買い込むというような次第となりました。「貴腐ワイン」のおいしさもよくわかりました。

ほんとうに盛り沢山の楽しい国際交流の一日でした。

## すばらしい演奏で満員の聴衆を魅了した

・・・Music has no border !!

札幌白石高校・コンコードカーライル高校ブラスバンド合同演奏会



札幌コンサートホールKitaraの演奏風景 <2007年4月12日>

北海道とマサチューセッツ州の新しい国際交流の1つとして実施。コンコードカーライル高校ブラスバンドを迎えての札幌白石高校との合同演奏会は、1998年(平成10年)・2004年(平成16年)に次いで、今回は3回目になります。(なお、2003年(平成15年)には札幌白石高校ブラスバンド一行が訪米しボストンシンフォニーホールで合同演奏会を実施しています。)コンコードカーライル高校コンサートバンドも札幌白石高校吹奏楽部とともに全国コンクール金賞に輝くすばらしい実績と栄光の歴史を誇っています。

今回の合同演奏会実施にあたり、主催者の札幌白石高等学校(清水 久雄校長)のご好意によりまして、当協会の鑑賞希望者約50名も、すばらしい感動の仲間入りをしました。

コンコードカーライル高校グループ(107名)は去る4月10日(火)来札。北海道庁知事表敬訪問、時計台・札幌ドーム・北海道開拓記念館・同開拓の村なども見学し、サッポロファクトリーでショッピング・夕食の自由時間を楽しみました。

今回の訪問のメインイベントの合同演奏会をはじめ、札幌白石高校のいろんな日本文化紹介の交流行事や、夕食会・ホームステイなどを通して、両校の生徒同志の友情の絆は一層確かなものとなりました。当協会としても大変うれしく思います。

# “ホーレス・ケプロン通り” 愛称付与運動の意義

## ——北3条通りを“ホーレス・ケプロン通り”と呼ぼう！——

明治4（1871）年1月、黒田清隆開拓使次官が渡米し、当時のグラント大統領への要請により、同年7月、67歳の高齢で、かつ、米農務局長の要職にあったホーレス・ケプロン（1804～1885、マサチューセッツ州出身）が、開拓使顧問として秘書と2名のエキスパートを伴って来日しました。

以後、3年10ヵ月の日本滞中で、北海道全域の測量調査や鉱物資源調査の成果に基づいて作成した“ケプロン報文”こそ、北海道の近代化に向けた開拓の原典となり、多くの内外の関係者の努力と相俟って、開拓使仮学校の設置～札幌農学校の開校、石炭など地下資源の開発、鉄道・道路網や港湾の計画、畜産・酪農の振興、現地の気象に合った畑作の奨励等々の展開をもたらしたことは、周知のことと思います。

この大きな功績への感謝と敬意を表すため、2004年11月27日（土）、「ホーレス・ケプロン生誕200年記念の集い」が道庁赤レンガ庁舎会議室で開催されました。これを機に、愛称付与運動の提案者・佐々木晴美氏から、ホーレス・ケプロンの北海道開拓に対する気概と多大な功績を象徴するものとして、開拓使本庁舎（明治12（1879）年1月焼失）に近接する道庁赤レンガ庁舎の前から、かつて“開拓使通り”と呼ばれた札幌市の北3条通りの、永山武四郎記念公園付近までの約1キロメートル区間を“ホーレス・ケプロン通り”の愛称をもって呼ぶことにしてはどうかという提案がなされました。

この提案は、現在の“北3条通り”が、開拓使本庁舎の建設と官営工場の設立構想が明治4（1871）年に開拓使によって或る程度固められていたものの、関連器械類の購入を含むホーレス・ケプロンの手配・進言によって創生川東岸地域一帯に整備された当時の近代的な工業ゾーンを結んだ開拓使時代のメイン・ストリートであったことを考慮したものでした。佐々木晴美氏の提案は、参加者の大きな感動と賛同を得て、以後愛称付与推進運動として継続されることとなりました。

その後、提案者・佐々木晴美氏の新聞への寄稿（北海道新聞、2005年1月8日夕刊の「私の発言」）に寄せられた賛同者を中心に「道民有志グループ」が結成されました。この「道民有志グループ」、北海道・マサチューセッツ協会、北海道日米協会が連携しながら、道庁赤レンガ庁舎会議室において、“ホーレス・ケプロン通り”愛称付与の意義などについて語り合う「第1回道民フォーラム」（2005年8月27日）、次いで「第二回道民フォーラム」（2006年9月2日）を開催しました。高橋はるみ北海道知事・上田文雄札幌市長の基本的なご賛同をいただき、北海道・札幌市の担当部局と事務レベルでの打ち合わせも進めてきました。

その後、沿道の各町内会・関連団体等の賛同の輪が広がりを見せるとともに、道庁赤レンガ庁舎前の区間の都市再開発事業も視野に入れた運動として今日に至っています。なお、“ホーレス・ケプロン通り”の愛称付与対象区間を延伸して欲しいとの声も寄せられており、運動の輪がさらに広がっています。

この愛称付与の意義は、日本近代化に関する歴史的視点・日米関係史の視点からも極めて大きいと思います。さらに、札幌市のまちづくりの観点からも、重視すべきであると考えられます。

このような認識のもとに、北3条通りを“ホーレス・ケプロン通り”という愛称で呼ぶための道民運動に、より多くの皆様のご賛同と継続的なご参加・ご支援を期待しています。

## 事務局短信

### 平成19年度 理事会 総会 ミニコンサート実施

去る5月8日(火)平成19年度北海道・マサチューセッツ協会総会に引き続き、ミニコンサート・北海道インターナショナルスクール合唱団(30名)によるブロードウェイミュージカルメドレー(オクラホマ・コーラスライン・オズの魔法使い他)が演奏され、大好評でした。約25分間の外国人生徒のすばらしいパフォーマンスでした。(会場 北方圏センター会議室 16:20~16:45)

### 学校ご紹介 北海道インターナショナルスクール(札幌市豊平区平岸5-19-1-55)

戦後、真駒内米軍基地にあった学校閉鎖後、1958年北海道アメリカンスクールとして設立。1961年北海道インターナショナルスクール(HIS)となり、翌年福住新キャンパスに移転。1995年札幌市と北海道の支援を受け、平岸の新校舎に移り現在に至る。現在は、23カ国の3歳~18歳の生徒約180人が在籍。校舎に隣接して広々とした寮もある。すべての授業が英語で行われ、個々の独自性と価値を尊重し、創造をのびる教育をめざす。「北海道インターナショナルスクール合唱団」は、2000年発足。毎年、Kitaraでのコンサートや札幌各地でコンサートを実施。2003年札幌市民合唱祭の札幌市民芸術大賞受賞。従来の合唱形式にとらわれない踊りや振り付けを取り入れたユニークな演奏をモットーとする。

(指導:杉野 豊教諭)

### コンコード町・七飯町姉妹提携10周年を迎える……2007年4月14日記念式典挙行

コンコード町と七飯町の交流の歴史は、平成5年(1993年)10月の「マサチューセッツ州姉妹市町村交流訪問団」に金澤町長(当時)ほか11名の町民代表が参加してコンコードを訪問したのが最初で、以来中・高校生を初めとする相互交流が続けられ、4年を経て1997年(平成9年)11月15日姉妹提携調印式となりました。その後も熱心な相互訪問交流の歴史を積み重ねてきました。そして今年4月、コンコード・カーライル高校ブラズバンドを中心とする107名の大訪問団を七飯町に迎えて、14日の10周年記念式典に続き、記念親善コンサート・地球温暖化問題を考える「みなみ北海道青少年環境国際会議」などの記念行事が行われました。この両町の交流の歴史は、北海道とマサチューセッツ州の親善交流の進展の大きく貢献しています。今後の益々のご発展を祈念いたします。

### トーマス・カーチン先生が引退されました

コンコード町と七飯町の交流の推進役として、この15年間熱心に活躍されたカーチン先生が、今年6月でコンコードカーライル高校を定年退職されました。大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。そして、今後の北海道・七飯町との交流のお世話役は後進の、デイビッド・ナレンバーグ先生が担当されることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

### マリー・シェーファー 米国総領事7月離任、後任は9月中旬に着任予定

在札幌米国総領事館のマリー・シェーファー総領事は、札幌在任3年でご退任。7月11日離札、マレーシア大使館の広報文化交流部長として赴任されました。シェーファー氏は、1980~84年の間、札幌大学・小樽商大・北星大などで英語講師をされた経緯もあり、日本語堪能で気さくな人柄で親しまれました。

### 第4回 米国セミナー開催予定:講師は、前在ボストン日本国総領事館経済担当領事 大久保徹夫氏

8月28日(火)、16:00~17:30(会場:道庁別館12階北方圏センター会議室)第4回米国セミナーとして、日本貿易振興機構(ジェトロ)海外調査部長大久保徹夫氏<前在ボストン日本国総領事館経済担当領事>をお迎えしまして、特別講演会「経済交流の視点からみた北海道とマサチューセッツ州」を予定しています。

北海道経済活性化のために、海外地域との経済ビジネス交流の促進が有効であることは言を俟たないところです。本道とマサチューセッツ州との間では、IT、バイオ、食品、農水産、観光など共通する関心産業分野もあり、企業誘致、産学連携、輸出入、技術交流、観光ビジネスなどの面での積極的な交流が期待されています。両地域間の経済ビジネス交流を促進するためには今後どうしたらよいのか、松坂・岡島両投手の活躍が脚光を浴びていることなども含め最近のマサチューセッツ州の事情に詳しい講師からお話していただく予定です。会員・一般の方の多数の皆様のご参加をお待ちしています。

### 新入会員紹介(2007年3月26日以降) <個人会員>

古川 栄子 御手洗 昭治 小野 茂 佐藤 博明 宮本 孝子 青木 靖子



AROMA EXPRESS ~アロマエクスプレス~  
毎月100%天然精油アロマの香りをお届けします。

来客5分前に臭いをカット。お部屋の空気をリフレッシュ。



# 香りの記憶で好印象。 集客力アップに。



それぞれの目的に合った9種類のアロマオイルをご用意しております。



## オフィス・店舗で

- ◎企業・店舗のイメージアップ、ブランディングに
- ◎従業員のやる気・集中力アップに
- ◎特別なイベントや説明会に
- ◎瞬時に気分転換。気持ちを切り替えたいときに
- ◎大切な商談や勝負のときに

瞬時に香りが広がる!  
最新アロマ芳香機  
無料レンタル

クラシックなデザイン  
素敵なインテリアに



## ご自宅で

- ◎受験生の集中力・効率アップに
- ◎お部屋の雰囲気づくり・話題づくりに
- ◎風邪・カビ・細菌予防に
- ◎寝つきを良くし質の高い睡眠を
- ◎芳香消臭剤が苦手な方に

月額利用料金.....6,300円

【まずはお問い合わせ下さい】

URL : [www.aromaexp.com](http://www.aromaexp.com)

FAX : 03-3429-6512

E-mail : [info@aromaexp.com](mailto:info@aromaexp.com)

住所 : 東京都世田谷区経堂4丁目39番1号

(株)さくらなでこアロマエクスプレス事業部



